

きちんと知りたい! 健康情報 胃がんのリスクを高めるピロリ菌を退治する

検査を勧められたことも除菌を勧められたこともありませんでしたが。

木村 現在の胃の検診の主流となるバリウム検査でも慢性萎縮性胃炎は診断できます。しかし、「胃がんのリスク高まるので除菌したほうがいいですよ」と指摘してくれる施設は、残念ながら、ごく一部だと思います。

ピロリ菌には地域による性質の違いがあります。例えば、ヨーロッパや南アジア、アフリカのピロリ菌は胃炎や潰瘍は頻繁に起こすが、がん化する率は少ない。

一方 中国、日本、

韓国で多く感染者がいる東アジア型のピロリ菌は、がん化する率が高くなっています。

その一方で他国と比べ日本のピロリ菌は、少ない量の薬で除菌が可能なのです。がんを起こす可能性が極めて高く、除菌しやすい日本人のピロリ菌感染症はできるだけ早く発見して治療すべきでしよう。40～60代で除菌をすることで、胃壁の萎縮の進行を止め、胃がんのリスクを低減することができます。それと同時に20～30代での早期発見が重要だと思います。ピロリ菌の検査は一生に一度受ければよ

いもので、除菌によってそれ以降の人生における胃や十二指腸の潰瘍、胃壁の萎縮、そして胃がんのリスクがなくせるのです。多量の被爆を伴う胃のバリウム検診より、有用性・優先性はむしろ高いものと考えます。

ピロリ菌検査・除菌は日本ヘルコバクター学会認定医のいるピロリ菌外来のある病院や医院で行うことになります。

—ピロリ菌を抑える効果があるというヨーグルトも宣伝で見かけますね。

木村 明治乳業のLG21というヨーグル

をお持ちですね。

木村 早稲田大学を出て、建設会社に勤めた後、リベリアで青年海外協力隊として理数科の教師したのです。そのとき、一緒に仕事をしていたアメリカの平和部隊の人が、帰国後医学部に進学したのを見て、私も医師を志望しました。初めから

大学をやり直さなければならなかつたので、かなり時間がかかりました。医学部を出て、微生物学教室に入りエイズなどの感染症を勉強し、ザンビア感染症対策プロジェクトにも参加することができました。今では、感染症の研究のかたわら、

トですね。マーシャル先生がテレビドラマに出ています。感染の検査をする前にこれを食べていると菌がいても陰性になることがあるので、検査前の2週間は食べないように指導しています。確かにピロリ菌を抑える効果はあるが、完全に除菌することは難しいでしょう。何らかの理由で除菌ができない方が、菌の量を減少させ、胃粘膜の炎症を抑えるには有用だと思います。

—木村先生はなかなかユニークな経歴

一生に一度、検査・除菌を行えば、以降の人生の胃の疾病、胃がんリスクを低減できます

ました。